

平成 23 年度

財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	10

事業計画書

平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団事業計画について

平成23年度は、施設部門において新たな施設の指定管理者の指定を受けたことなど、運営改善計画の中で安定経営に向け積極的に取り組んできた「指定管理施設の受託」の具現により、当初予算マイナス額の改善が図られました。このことにより、数年来均衡を保っていた文化財部門と施設部門の事業収入の割合が大きく変化し、施設管理運営収入が全体の7割を占めることになりました。

文化財部門では、市内はもとより、昨年度に引き続き調査を受託する会津の下郷町、中通りの川俣町、浜通りの浪江町、そして、新規の檜葉町などの市外地調査を実施してまいります。

施設部門では、新たに福島県の施設である福島県いわき海浜自然の家が加わり、7施設の指定管理者として施設の管理運営にあたってまいります。市内に所在する教育文化等施設の指定管理者として、利用者へサービスはもちろんのこと質の高い専門性を提供し「市民に愛され親しまれ施設づくり」をさらに推進してまいります。

このほか、出版事業における報告書の刊行や啓発広報事業における受託施設での共同企画展や遺跡現地説明会及び学校などへの出前講座の開催を通して、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、合わせて普及活用事業での公民館などへの有償出前講座を積極的に開催し、収益を図ってまいります。また、地域及び「あぶくま発見の旅サポート」や「福島県博物連絡協議会」などの関係団体との連携をさらに深めてまいります。

なお、3月11日発生しました東北地方太平洋沖地震及び原発事故の影響により、文化財部門及び施設部門共に受託事業の大幅な変動が予想されます。

は、地震及び原発事故の発生により見通しが不明となった事業。

1 文化財部門

(1) 基本方針

平成23年度の埋蔵文化財調査事業は継続事業の10件と、新規の現地調査2件の受託額は167,656千円と厳しい事業規模となる見通しであります。さらに東北地方太平洋沖地震による未曾有の災害に見まわれ、事業の大幅な変動が予想されます。事業の内訳は、試掘調査1件、本調査(整理・報告書作成含む)4件、整理・報告書作成事業7件を計画しています。

これらの事業を実施するに当たっては、安全な作業環境の確保に万全を尽くし、事故防止に努めてまいります。

(2) 事業計画

ア 試掘調査事業 1件(継続)

試掘調査は、本調査の是非や本調査の費用積算のために調査するものです。随時開発行為が発生した場合に、市の指示で試掘調査を行うものであります。市内遺跡試掘調査1件を予定しています。

イ 本調査事業 4件(継続2件、新規2件)

泉第三土地区画整理事業の前田A遺跡・泉町A遺跡。下郷町埋蔵文化財発掘調査事業の下平遺跡2件と、新規事業の矢祭町の前平遺跡発掘調査事業、楢葉町の南代遺跡発掘調査事業2件を予定しています。

ウ 整理・報告書作成事業 7件(継続)

市内で発掘調査が行われた出土品整理事業、市道改良事業による大場D遺跡、泉第三土地区画事業の神力前B遺跡、薄磯餓鬼堂地区復旧治山事業の餓鬼堂横穴群、県道拡幅事業の浪江町の清水遺跡、県道改良事業の川俣町の櫛森遺跡、緊急雇用創出事業の7件を予定しています。

2 施設部門

(1) 基本方針

いわき市アンモナイトセンター、いわき市考古資料館、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市暮らしの伝承郷、いわき市草野心平生家、いわき市生涯学習プラザ、そして新たに加わった福島県いわき海浜自然の家の7施設について、指定管理者として施設の管理運営にあたってまいります。運営面では全体として利用者減少の厳しい状況が続いておりますが、利用者への「安全・安心の確保と提供」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」を実践するとともに、市民ニーズを的確に捉えた事業の展開とそれらに対する自己評価を常に行いながら、「市民に親しまれ愛される施設づくり」を推進してまいります。また、各施設におけるボランティアとの協働をさらに深めるとともに、研修の開催により質の向上を図ってまいります。

(2) 事業計画

ア いわき市アンモナイトセンター

一般体験発掘事業は、個人や家族を対象とした体験発掘を毎週土曜日・日曜日(第3日曜日を除く)に実施し、5月の連休や8月のお盆休みにも特別に実施します。

特別体験発掘事業は、団体を対象とした発掘を一般体験発掘日・第3日曜日及び休館日以外の平日に実施します。

親子自然探訪教室は、アンモナイトセンター周辺の豊かな自然を舞台に自然のふしぎや大切さを学びます。また理科への興味につながり、家族の絆を深める企画を第3日曜日に毎月開催します。

企画展は、小・中学校の夏休み・冬休みの期間中にセンター産出化石を展示するとともに、市民や来館者が化石とのつながりを考え、化石に親しみがわく展示会を開催します。

公開シンポジウムは、全国に誇れる化石の産出地を地元小・中学生及び一般に地学教育の普及やセンター利用の促進を目的として、小・中学校の協力のもと、久之浜中学校を会場に、7月に「第8回公開シンポジウム」を開催します。

20～30kmの屋内退避区域に位置している。

イ いわき市考古資料館

企画展及びミニ企画展を4回開催します。第1回企画展「かざりの世界」は、貝塚やお墓などから出土した各時代の装飾品を集成展示し、飾りの変遷について考えていきます。第2回企画展「写真で綴るいわき指定文化財」は、いわき市内の国・県・市指定文化財のうち書籍・典籍・絵画・古文書・歴史資料に焦点をあて、重厚ないわきの歴史に触れていただきます。第3回企画展「平成23年度発掘速報展」は、平成23年度の発掘調査成果をいち早く公開・展示するものです。各企画展ともに、より内容を理解いただくために講演会、展示解説会、見学会、遺跡報告会などをあわせて開催します。

講座は、5講座を開催します。国史跡中田横穴の一般公開に合わせた「中田横穴青空講座」、夏休みの児童を対象とした「自由研究に挑戦しよう!」、写真で綴るいわきの文化財にあわせた「指定文化財見学会」、質の高いボランティアを養成するための「ボランティア養成講座」などです。

体験学習会は、「GW体験学習会」「夏休み体験学習会」「古代まつり」を各2日の計6回、「勾玉づくり体験会」を夏・冬休みあわせて14回の計20回開催します。また、学校などからの要請により開催する出前講座、歴史に関する問い合わせや資料の貸出しなどのレファレンスなどについても、積極的に対応してまいります。

ウ いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、企画展を春に「萩原朔太郎展」、夏に「長野ヒデ子絵本原画展」、秋に「新収蔵品展2011」の計3回開催し、その企画展に関連する講演

会などの催しを行います。また、スポット展として、「草野心平と春」「猪狩満直」「吉野せいと三野混沌」「草野天平」、さらに地域ゆかりの文学者の紹介展として「河林満」「花岡謙二と山村暮鳥」を開催します。

春の企画展「萩原朔太郎展」では、日本の口語自由詩を完成した詩人・萩原朔太郎（1886? 1942）の生涯と作品を、自筆資料、著作、朔太郎撮影写真等で紹介し、朔太郎と草野心平との交友にも触れます。夏の「長野ヒデ子絵本原画展」では、絵本作家・長野ヒデ子（1941-）の絵本原画『おかあさんがおかあさんになった日』（産経児童出版文化賞）『せとうちたいこさんデパートいきタイ』（日本絵本賞）そして草野心平詩『げんげと蛙』の挿画などにより、家族の絆、心平との関わり紹介します。秋の「新収蔵品点2011」では、平成19年度以降、新たに収蔵・整理した資料で、草野心平の戦時中の作品が掲載された書籍、歷程同人の詩人渋沢孝輔資料、そしていわき市ゆかりの作家の資料などを紹介します。

催しは、「文学散歩」「詩作講座」「サマーナイトの催し」「絵本の読み聞かせ」、ボランティアとの連携事業「収穫祭」などを継続します。

草野心平生家では、催しとしては、心平誕生日の市民朗読会、カエルの折り紙作り、子どもじゃんがら念仏踊り、心平忌・心平を語る会、天平の集いを行います。また、来館者に親切・丁寧な案内に努め、親しまれる運営を進めてまいります。

エ いわき市暮らしの伝承郷

企画展は7～8月にかけて「磐城平城下の町」と題し、江戸時代の絵図類や文書及び発掘調査で出土した遺物などを展示します。9～10月には「収蔵品展」を開催します。本展では、当館が調査し、保管してある民俗資料を展示します。民俗資料の展示を通して、昔の暮らしを再現。身近に残る民俗資料に着目し、文化財としての啓蒙普及を図ります。関連行事として「展示解説」を開催します。1～2月には「昭和の遊び展」を開催します。昭和40年代ごろからの子供が夢中になったオモチャや漫画などを展示し、高度経済成長時代の豊になっていく時代背景をさぐります。

特別展は2～3月に「おひな様とつるしびな」を開催し、つるし雛を製作している方々の協力を得てつるし雛を展示。また、それにあわせて市民から伝承郷に寄贈されたお雛様を展示して3月の節句を祝います。

講演会は、夏井芳徳氏を講師に迎え、「いわきの民話 - 民話の中から見えてくる今・昔」を5回にわたり開催します。

体験事業は、技術の伝承や伝統に親しむための体験学習を、四季折々の特色や年中行事的な要素も織り交ぜながら数多く開催します。「キッズ民話語

りの会」は10月に開催し、それに向けて第18期語り部教室の受講生を募ります。また、現代社会では見られなくなった年中行事を再現する「伝承郷行事」もこれまで以上に内容と広報の充実を図ってまいります。

当館のメイン展示でもある、古民家を含めた園内管理では、清掃から庭木の剪定、田畑耕作はもとより、里山づくりなど昔の暮らしそのものの復元と伝承をめざし、来館者に親しみの持てる空間の提供に努めます。

ボランティア育成事業は、ボランティアの資質向上のため、移築民家旧所在地または市外の古民家移築施設の見学を実施します。

企画展示室の使用有料化3年目に対応して、利用者にとってできるだけ使い勝手の良いよう、相互理解を図り、スムーズな運営に努めてまいります。

なお、事業全体に関しての市民への広報については、ホームページの充実やメディアへの情報提供の拡充を行い、周知の向上を図り、またアンケートや事業懇談会の意見を取り入れ、自己評価を行いつつ、適正な市民へのサービス提供に努めてまいります。

オ いわき市生涯学習プラザ

平成23年度は開館10年目を迎えます。これまでに生涯学習プラザの周辺は、教育・文化的施設の整備が進み、市民が求める生涯学習の環境にも大きな変化がみられます。このことから、周辺地域及び施設とのネットワークや公民館との連携を強め、これまで以上に中核施設としての役割を十分に果たして参ります。また、事業面では、ボランティア参加による学習機会の輪をひろげ、市民の生涯学習の多様性に応えて参ります。

特に、10周年を記念しての諸事業を展開します。なかでも、生涯学習フェスティバルは地元商店会が中心に行う「新まごころセール」との連携を強化し、周辺施設を含めた地域イベントとして協働開催します。また、当プラザで活動する団体・サークルの協力を得て、児童生徒や一般市民が気軽に参加できる各種体験プログラムを拡充します。さらに、ITボランティアリーダーによる身近なPC講座や高齢者などを対象としたIT相談会を充実します。

このように、さまざまな視点から特色ある各種事業(講座)を開催し、いわきヒューマンカレッジや公民館との連携講座などをおして、全市的な市民の交流を深め、更なる生涯学習の推進につなげて参ります。

また、広報紙等の発行やホームページをおして、情報を発信・提供するとともに、利用者懇談会やアンケート調査によって利用者のニーズを的確に把握し、市民の目線に立った効率的かつ効果的な管理運営をはかって参ります。

施設の安全確認を踏まえ対応。

カ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき海浜自然の家は、恵まれた自然環境の中で集団宿泊指導等を行うことにより、心身ともに健全な青少年の育成と生涯学習の振興を目的とした施設であり、その機能を十分に発揮するため、施設・設備の整備と運営方法の改善に努め、利用者の自主・自立的な活動を支援してまいります。

そのためには、利用者の事故防止や安全管理はもとより、多様なニーズや目的に応じた施設の充実・整備を図り、効率的で柔軟な管理運営を行ってまいります。なかでも、立地条件を活かした潮目の海での釣り・磯遊びを中心としたさまざまな体験活動プログラムの提供や青少年育成指導者及び野外教育指導者の養成、知識・技能向上を図る方策の拡充に努めてまいります。

また、いわき海浜自然の家オープンデーなどの利用促進事業、心に翼・ふれあいキャンプなどの啓発事業及び福島の冬！ウインターフェスティバルなど県内自然の家との協力事業などを主催事業として開催してまいります。

当財団職員の知識と技能を生かし、施設の管理運営能力を十分発揮するとともに、県と密接に連携を取りながら県民に親しまれる施設づくりに努めてまいります。

施設の安全確認などを含め、移管時期について県と要協議。

3 出版事業

(1) 基本方針

重要遺跡の調査報告書の増刷を行うとともに、既刊の調査報告書については、ホームページでの案内及び学会や研究会などへ出向くなど、一層販売の促進にあたり、在庫本の一層に努めてまいります。

(2) 事業計画

文化財部門では、「八幡横穴群」・「古川遺跡」などの重要遺跡の調査報告書及び既刊調査報告書の頒布をします。

4 普及活用事業

(1) 基本方針

当財団の職員が有する専門的な知識を、学校を除く公民館などの機関へ有償提供し、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、収益を図ってまいります。

(2) 事業計画

事務局においては、「いわきの歴史」や「地域の歴史」などの講座、各施設

においては、各施設の独自性・専門性を踏まえたメニューを作成し、積極的に事業を展開してまいります。

5 研 修

(1) 基本方針

利用者への「安全・安心の確保と提供」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」などの一層の向上を図るため、関係資格の取得や研修への参加を積極的に推進してまいります。

(2) 事業計画

「安全・安心の確保と提供」のため、安全講習会へ積極的に参加するとともに、安全資格などの取得に努めてまいります。「満足いただけるサービスの提供」のため、各種研修を開催するとともに参加し関係資格を取得するなど、接遇の向上に努めてまいります。「質の高い専門性の提供」のため、学会・セミナー・シンポジウムなどへ参加を推進し、職員個々の専門性を高めてまいります。

6 啓発広報事業

(1) 基本方針

地域に向いての企画展や指定管理者施設での共同企画展の開催などを通して、施設利用者数の増加も含め事業団の専門性を市民の方々にアピールしてまいります。また、文化財・施設両部門ともに、多くの情報を市民のみなさまに提供してまいります。

(2) 事業計画

文化財部門においては、発掘調査で得られた成果については、現地での説明会や考古資料館での「発掘速報展」での成果発表のほか、地元で「展覧会」を開催するなど、地域の皆様に地元の重厚な歴史を知っていただきます。

施設部門においては、入館者の減少する冬場に、当財団がいわき市から指定管理者の指定を受け、管理運営している教育文化施設で、共通のテーマでの「共同企画展」を開催します。また、ホームページは、市民ニーズを踏まえながら、内容の充実を図るとともに更新回数の増に努めてまいります。

7 職員に関する事項

平成23年1月1日現在

(1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	事務局長	事務局次長 専門研究員	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	1(1)	2(1)	-	-	-	-	-	-	3(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	1	-	1	3
調査第一係	-	1	1	1	-	1	1	-	5
調査第二係	-	-	(1)	1	-	-	-	30	31(1)
計	1(1)	3(1)	2(1)	2	-	2	1	31	42(3)

(2) 施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	館長 所長	副館長 主任主査 専門学芸員	係長 主任研究員 主任学芸員	主査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任 学芸員	主事 学芸員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	1	-	-	-	-	-	1	3
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	(1)	-	-	(5)
文学館	1	2	-	2	-	-	-	4	9
伝承郷	1	1	-	1	-	1	-	3	7
生涯学習 プラザ	1	1	-	3	-	1	-	7	13
計	4(1)	5	(2)	6(1)	-	2(1)	-	15	32(5)
合計	5(2)	8(1)	2(3)	8(1)	-	4(1)	1	46	74(8)

収 支 予 算 書

平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算について

平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算

(総 括 表)

(単位千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
< 事業活動収支の部 >			
事業活動収入			
1 基本財産運用収入	140	140	0
2 事業収入	337,181	466,153	128,972
3 寄付金収入	1	1	0
4 雑収入	1,065	1,659	594
事業活動収入計(ア)	338,387	467,953	129,566
事業活動支出			
1 事業費支出	345,727	440,861	95,134
2 管理費支出	19,230	24,714	5,484
事業活動支出計(イ)	364,957	465,575	100,618
事業活動収支差額(ア-イ=ウ)	26,570	2,378	28,948
< 投資活動収支の部 >			
投資活動収入			
投資活動収入計(エ)	0	0	0
投資活動支出			
1 固定資産取得支出	410	1,550	1,140
投資活動支出計(オ)	410	1,550	1,140
投資活動収支差額(エ-オ=カ)	410	1,550	1,140
< 財務活動収支の部 >			
財務活動収入			
財務活動収入計(キ)	0	0	0
財務活動支出			
財務活動支出計(ク)	0	0	0
財務活動収支差額(キ-ク=ケ)	0	0	0
< 予備費の部 >			
予備費			
1 予備費 (コ)	300	300	0
当期収支差額(ウ+カ+ケ-コ=サ)	27,280	528	27,808
前期繰越収支差額(シ)	54,806	54,278	528
次期繰越収支差額(サ+シ=ス)	27,526	54,806	27,280